

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

A. コースワークの充実・強化

②分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実

《医療系》

●慶應義塾大学医学研究科医科学専攻

「創薬に向けた医薬科学を先導する人材の養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

「分野横断的な科目群、副専攻科目群等の充実」として、学生に広い視野をもたせるために、医学・薬学研究科キャンパスに「研究クラスター」を設定し、それぞれの学生が所属する研究室とは異なるキャンパスのクラスターの中から1つの最先端研究を実施している研究室でのラボツアーとセミナー受講・議論、およびレポート作成を行った。また、創薬を目的とするプログラムであることから、大学病院での臨床体験プログラムで医療の実際を体験させた。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

医学研究科5研究クラスターと薬学研究科4研究クラスター、また、大学病院の各臨床教室に、それぞれ担当責任教員を置いて、教員の学生への適切な対応・議論や学生のレポートによるまとめなど、学生が十分にプログラムを消化できるよう、フレキシブルで細かな配慮をしたプログラムを設定した。レポート作成は、本プログラムの全活動において義務付けたが、学生のレポート作成能力の向上とともに、指導教員への教育効果のフィードバックとして有用であった。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

このプログラムで、異なる分野の最先端医薬科学がどのように進められているのか、医薬科学が臨床にどのように応用されているか、社会へどのように貢献しているかを体験することにより、単に新しい知識を得ただけでなく、学生の視野が広がり、将来への進路への貴重な情報となっただけでなく、学生の研究へのモチベーションが格段に高まり、学会・論文発表の増加につながった。また、医薬間・他分野研究者との交流が促進された。同時に、B-①「複数教員による多面的な指導体制の整備」にもつながった。

1. 特に効果的であり改善に資した事例について

B. 円滑な学位授与の促進

①複数教員による多面的な指導体制の整備

《医療系》

●慶應義塾大学医学研究科医科学専攻

「創薬に向けた医薬科学を先導する人材の養成」の事例

(具体的に何を実施したのか)

「複数教員による多面的な指導体制の整備」では、上記医学・薬学研究科の多数の教員が横断的科目の教育に参加したのに加えて、政策メディア研究科鶴岡キャンパスの先端生命科学研究科の教員による指導を行った。先端生命科学研究科では、多様な分野において、最先端オミックスとバイオインフォマティクスを用いた研究が推進されており、本プログラムの学生と指導教員が毎年10数名で、先端生命科学研究科の教員指導による研修、また異分野の学生との研究発表会を実施した。また、毎年サマースクールを開催し、多様な分野の学内外の教員による指導を行った。

(実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと)

先端生命科学研究科研修では、単なる施設見学ではなく、最先端科学の実際を異分野の教員と学生との“双方向的研修”で学ぶことを目指した。具体的には、両研究科からの双方向性発表と議論が可能になるように内容を企画した。同様に、A-①の横断的科目においても、学生は、医学・薬学研究科の教員から指導を受けられる体制を構築した。サマースクールでは、研究のモチベーションを上げることを第一の目的として、研究することの面白さ・進路の多様性などを、それぞれの教員と先輩となる博士大学院生の具体的な経験をあげた講演をお願いした。

(どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか)

最先端研究を実体験し、異分野の教員と学生との双方向性学習により、学生は、異分野融合研究の重要性を学んだだけでなく、異なる視点からの議論に多いに刺激を受け、研究に対するモチベーションが格段に高まった。また、学生は、広い視野を得ることにより、将来への進路を考える上で、実際的で貴重な情報を得ることができた。さらに、先端生命研究所との共同研究が生まれ、研究成果の向上につながった。サマースクールでは、特に研究を開始して間もない学生のモチベーションを高めるのに非常に効果的であった。